

東京都立練馬工科高等学校

評価の方法	ワークシート、提出物の完成度と提出状況。 協働学習への参加、課題解決に向けての意欲。 漢字テストによる学習到達度。 上記項目を観点別に評価し、評定を算出する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	国語	科目	国語演習
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	新編文学国語(大修館書店)・国語便覧(数研)

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
本文中の漢字や語句を正しく理解することができる。歴史的仮名遣いを正確に捉えることができる。	本文の内容を読み取り登場人物の心情を的確に捉えることができる。古典文学を読み、現代との共通点や相違点を捉えることができる。	発問に対して主体的に考え、周囲と話し合うことができる。積極的に課題に取り組み、期限内に提出することができる。

学期(月)		指 導 項 目	指 導 内 容	評価基準			予 定 時 数
				知	思	態	
1 学 期	4	クラス分けテスト		○	○	○	30
		小説	『ナイン』の読解と語句・漢字の学習。小説の構造を学ぶ。	○	○	○	
	5	小説	『ナイン』の読解と語句・漢字の学習。小説の構造を学ぶ。	○	○	○	
			小説の内容に対して自分の考えをもち感想を書く。	○	○	○	
	6	小説	『山月記』の読解と語句・漢字の学習。小説の構造を学ぶ。	○	○	○	
			小説の内容に対して自分の考えをもち感想を書く。	○	○	○	
	7	小説	『山月記』の読解と語句・漢字の学習。小説の構造を学ぶ。	○	○	○	
		作品の続きを想像して作品を創作する。	○	○	○		
確認テスト			○	○	○		
2 学 期	9	小説	『晴れた空の下で』の読解と語句・漢字の学習。小説の構造を学ぶ。	○	○	○	39
			小説の内容に対して自分の考えをもち感想を書く。	○	○	○	
	10	古文	古文をなぜ学ぶのかの意義を知る。	○	○	○	
			『枕草子』『はしたなきもの』	○	○	○	
			『平家物語』『能登殿最期』	○	○	○	
	11	詩	詩の構成と表現を確認する。	○	○	○	
			『コスモス』	○	○	○	
	12	確認テスト		○	○	○	
3 学 期	1	小説	『こころ』	○	○	○	6
			小説の内容に対して自分の考えをもち感想を書く。	○	○	○	
	2	確認テスト		○	○	○	
	3						

年間予定授業時間数

75

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物等) 2.提出物(授業ワークシートの提出と取り組み状況) 3.小テスト 4.確認テスト(各学期に1回実施) 以上の4項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	地理歴史					科目	歴史総合
クラス又は班	31	32	33	34	35	単位数	使用教科書・教材
担当者						2	183 第一 歴総 711

教科・科目のねらい（目標）

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
・歴史的事象についての知識をしっかりと身につけ、その事象が起こる背景を十分に理解できる ・他国と自国の歴史的事象の背景を広い視点で比較し、それぞれの多様性や類似点を理解することができる	・資料の読み取りや知識を基に、歴史的事象の背景を、思考・判断することができる ・歴史的事象の知識を土台にして他者への理解を示し、自らの立場や考えを適切に表現できる	・授業を通して、歴史的知識を身につけ今後の社会生活に生かそうとする主体的な姿勢を持っている ・遅刻・欠席をほとんどせず意欲を持って授業に参加し、課題等に積極的に取り組み、提出期限を守り提出する

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定
				知	思	態	
1 学期	4	・ガイダンス ・基礎知識の確認 (年号、地名、資料の読み取り方)	・高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を確認する ・西暦と和暦の関係、基本的な地名、資料の重要性、世界宗教について	○	○	○	30
	5	○近代化への胎動 ・17世紀以前のアジアの繁栄 ・ヨーロッパの市民社会と海外進出 ・江戸時代の日本の政策	・17世紀以前のアジアの経済と社会の特徴、ヨーロッパの近代市民社会と海外進出、江戸時代後期の日本社会について理解・考察・表現させる	○	○	○	
	6	○欧米の市民革命 ・市民革命 ・国民国家の形成	・欧米の市民革命が起きた背景、国民国家の形成の流れについて理解、考察・表現させる	○	○	○	
	7	・確認テスト ○アジアの変容と日本の近代化 ・調べ学習	・1学期のまとめの確認テスト ・アジアの変容と日本の近代化について理解し、調べ学習につなげる。 ・歴史的事象についての調べ学習	○	○	○	
2 学期	9	○帝国主義の時代について ・帝国主義期と世界分割 ・帝国主義期の日本とアジア	・列強の進出と植民地形成の過程、帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解させる。 ・帝国主義がアジア・アフリカに与えた影響、列強間の関係を多面的・多角的に考察させる。	○	○	○	32
	10	○第一次世界大戦と大衆社会 ・第一次世界大戦 ・第一次世界大戦後の世界	・第一次世界大戦の推移と世界への影響、日本参戦の背景と影響を理解する。 ・第一次世界大戦の特徴と惨禍、日本とアジア太平洋地域の関係を多面的・多角的に理解、考察させる。	○	○	○	
	11	○経済危機と第二次世界大戦 ・第一次世界大戦後の経済危機 ・第二次世界大戦	・第一次世界大戦後の国際協調体制、経済危機について理解、考察させる。 ・第二次世界大戦の特徴、惨禍について理解させる。	○	○	○	
	12	・確認テスト ・調べ学習	・2学期のまとめの確認テスト ・歴史的事象についての調べ学習	○	○	○	
3 学期	1	・第二次世界大戦後の世界と日本 ○グローバル化と私たち ・冷戦	・第二次世界大戦後の国際協調体制について理解、考察させる。 ・冷戦構造について、理解、考察させる。	○	○	○	8
	2	・グローバル化と現代社会 ・確認テスト	・世界のグローバル化について、各地域の状況を理解、考察、表現させる ・現代社会の状況について、考察、表現させる ・3学期のまとめの確認テスト	○	○	○	
	3			○	○	○	
				○	○	○	
年間予定授業時間数							70

評価の方法	・歴史的事象についての知識を獲得しているか ・資料から適切な情報を読み取ることができるか ・歴史的事象に関して、知識を基に考察し、自らの考えを表現できるか ・授業、課題に対して、積極的・主体的に取り組む姿勢を持っているか ・出席状況
備考	※授業内では、多面的な視点から物事を見られるよう留意する。

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	公民	科目	政治経済
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	2 東書 政経701

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
- 現代社会の問題の解決に向けて探求するための手掛かりとなる概念や理論について理解する - 資料から、適切な情報を調べる方法、まとめる技能を身に付ける	- 国家及び社会形成者として必要な選択・判断基準となる考え方や政治経済に関する理論を活用し、現実社会の諸課題を把握し説明する力を身につける - 合意形成や社会参画を視野に入れ、構想したことを表現する力を養う	- よりよい社会の実現を目指し、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養う - 遅刻・欠席をほとんどせず意欲を持って授業に参加し、課題等に積極的に取り組み、提出期限を守り提出する

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
				知	思	態	
1 学期	4	現代日本の政治・経済	法の支配と立憲主義 基本的人権の保障と日本国憲法	○	○	○	30
	5	現代日本の政治・経済	権利と義務の関係 国会の組織と立法	○	○	○	
	6	現代日本の政治・経済	内閣の機構と行政 裁判所の機能と司法制度	○	○	○	
	7	1学期確認テスト 現代日本の政治・経済	地方自治制度と住民の権利 主権者としての政治参加のあり方	○	○	○	
2 学期	9	現代社会の政治・経済	経済活動と市場 経済主体と経済循環	○	○	○	32
	10	国際社会の諸課題の探究	地域社会の自立と政府 多様な働き方・生き方を可能にする社会	○	○	○	
	11	現代の国際政治・経済	国際社会の変遷 国際紛争と軍縮への取り組み	○	○	○	
	12	2学期末確認テスト 現代の国際政治・経済	貿易の現状と意義 国際経済の安定と成長に向けた日本の役割	○	○	○	
3 学期	1	国際社会の諸課題の探究	グローバル化にともなう人々の生活や社会の変容 地球環境と資源エネルギー問題	○	○	○	8
	2	国際社会の諸課題の探究	政治分野における男女共同参画を推進するためには 人種・民族問題や地域紛争の解決に向けた 国際社会の取り組み	○	○	○	
	3	学年末確認テスト まとめ		○	○	○	
年間予定授業時間数							70

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物、服装等) 【知識・技能】中間確認テスト、期末確認テスト、学年末確認テスト 【思考力・判断力・表現力】中間確認テスト、期末確認テスト、学期末確認テスト、提出物、授業態度 【主体的に学習に取り組む態度】出欠席、授業態度、振り返りシート 観点別評価は各項目の点数によって評価する。 評定は、各項目の合計点数によって評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	数学					科目	数学A
クラス又は班	3年1組	3年2組	3年3組	3年4組	3年5組	単位数	使用教科書・教材
担当者						2	新編数学A(数研出版)

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
場合の数と確率、整数の性質について理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。	場合の数と確率、整数の性質について論理的に考察し表現する力、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
			知	思	態	
1 学 期	4 集合 集合と要素	集合, 部分集合, 共通部分と和集合, 補集合	○	○	○	25
	5 場合の数と確率 集合の要素の個数 場合の数	集合の要素の個数, 和集合の要素の個数, 補集合の要素の個数 樹形図, 和の法則, 積の法則	○	○	○	
	6 場合の数と確率 順列 組み合わせ	順列, 順列の利用, 円順列, 重複順列 組み合わせ, 組分け, 同じものを含む順列	○	○	○	
	7 場合の数と確率 事象と確率	試行と事象, いろいろな事象の確率	○	○	○	
2 学 期	9 場合の数と確率 確率の基本性質 独立な試行とその確率	確率の基本性質, 一般の輪事象の確率 独立な試行の確率, 反復試行の確率	○	○	○	30
	10 図形の性質 三角形の辺の比 三角形の重心・内心・外心	平行線と線分の比, 線分の内分と外分 三角形の重心・内心・外心	○	○	○	
	11 図形の性質 円に内接する四角形	弧と弦の性質, 円周角の定理, 円に内接する四角形 円と直線, 方べきの定理	○	○	○	
	12 図形の性質 2つの円	位置関係, 共通接戦	○	○	○	
3 学 期	1 数学と人間の活動 約数と倍数 素数と素因数分解	約数と倍数, 倍数の判定法 素数, 素因数分解	○	○	○	15
	2					
	3					
年間予定授業時間数						70

評価の方法	【知識・技能】中間確認テスト、期末確認テスト、学年末確認テスト 【思考力・判断力・表現力】中間確認テスト、期末確認テスト、学期末確認テスト、提出物、授業態度 【主体的に学習に取り組む態度】出欠席、授業態度、振り返りシート 観点別評価は各項目の点数によって評価する。 評定は、各項目の合計点数によって評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	数学	科目	数学Ⅱ
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		4	新編数学Ⅱ(数研出版)

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
数学Ⅰで培った、高校数学の基礎知識を基に高次方程式や因数定理が解ける。	円や直線の方程式を理解し、不等式の表す領域を図示できるようにする。三角関数や指数・対数関数を理解し、微分積分の意味やいろいろな面積が出せる。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
			知	思	態	
1 学 期	4 3次式 二項定理	展開, 因数分解の公式 n乗の展開	○	○	○	50
	5 多項式の割り算 分数式 恒等式 等式・不等式の証明	割り算, $A=BQ+R$ 分数式の四則計算、恒等式の計算 等式・不等式の証明	○	○	○	
	6 複素数 2次方程式の解 解と係数の関係	複素数とその計算 判別式 因数分解、2次方程式の決定	○	○	○	
	7 高次方程式	剰余の定理、高次方程式の解き方	○	○	○	
2 学 期	9 点と直線 円	直線上の点、平面上の点、直線の方程式 円の方程式、円と直線	○	○	○	70
	10 三角関数	角の拡張、三角関数 三角関数のグラフ、三角関数の性質 三角関数を含む方程式	○	○	○	
	11 指数関数 対数関数	指数の拡張、指数関数 対数とその性質、対数関数	○	○	○	
	12 微分係数と導関数	微分係数、接線の方程式	○	○	○	
3 学 期	1 積分法	不定積分、定積分	○	○	○	20
	2					
	3					

年間予定授業時間数

140

評価の方法	【知識・技能】中間確認テスト、期末確認テスト、学年末確認テスト 【思考力・判断力・表現力】中間確認テスト、期末確認テスト、学期末確認テスト、提出物、授業態度 【主体的に学習に取り組む態度】欠出席、授業態度、振り返りシート 観点別評価は各項目の点数によって評価する。 評定は、各項目の合計点数によって評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	理科	科目	物理演習
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	東京書籍「新編物理基礎」

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
エネルギー的な視点から、自然現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	エネルギー的な視点から、自然現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

学期	(月)	指 導 項 目	指 導 内 容	評価基準			予 定 時 数
				知	思	態	
1 学 期	4	1編 物体の運動とエネルギー	速さと速度	○	○	○	30
		1章 直線運動の世界	直線運動	○	○	○	
	5		重力加速度・放物運動	○	○	○	
			【実験】重力加速度の測定	○	○	○	
		2章 力と運動の法則	力の合成・分解	○	○	○	
	6		運動の3法則	○	○	○	
			運動方程式	○	○	○	
			【実験】摩擦力	○	○	○	
	7		確認テスト	○	○	○	
3章 仕事とエネルギー		仕事の原理と仕事率	○	○	○		
2 学 期	9	3章 仕事とエネルギー	仕事の原理と仕事率	○	○	○	30
			力学的エネルギーの保存	○	○	○	
	10	2編 ささまざまな物理現象とエネルギー	【実験】熱と温度	○	○	○	
		1章 熱	熱の移動と保存	○	○	○	
	11	2章 波	【実験】波の伝わり方	○	○	○	
			波長と速さと振動数	○	○	○	
			音波	○	○	○	
	12		確認テスト	○	○	○	
3章 電気		静電気と電流	○	○	○		
3 学 期	1	3章 電気	電磁誘導	○	○	○	10
			【実験】電磁誘導	○	○	○	
	2						
	3						

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物等) 2.実験、実習(実験の取り組み、課題の出来ばえ、創意工夫等) 3.提出物(授業プリント、ノート、実験レポートの提出と取り組み状況) 4.小テスト(単元ごとに実施) 5.確認テスト(年間で3回実施)
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	理科	科目	化学基礎
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	第一学習社「高等学校 新化学基礎」

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
物質とその変化についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
			知	思	態	
1 学 期	4	物質とその構成要素 物質の分離 物質を構成する元素	○	○	○	30
	5	元素の確認 物質の三態 原子のなりたち	○	○	○	
	6	同位体とその利用 原子の電子配置 元素の周期律と周期表	○	○	○	
	7	化学結合 イオン イオン結合 イオンからなる物質	○	○	○	
2 学 期	9	共有結合 分子からなる物質 共有結合の結晶	○	○	○	30
	10	物質の変化 金属結合と金属結晶 原子量・分子量・式量 物質質量	○	○	○	
	11	酸と塩基とその反応 溶解と濃度 化学反応式とその量的関係 酸と塩基	○	○	○	
	12	酸化還元反応 pHと中和 酸化と還元 酸化数	○	○	○	
3 学 期	1	酸化剤と還元剤 金属のイオン化傾向と金属の反応	○	○	○	10
	2					
	3					

年間予定授業時間数

70

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物等) 2.実験、実習(実験の取り組み、課題の出来ばえ、創意工夫等) 3.提出物(授業プリント、ノート、実験レポートの提出と取り組み状況) 4.小テスト(単元ごとに実施) 5.確認テスト(学期に3回実施) 以上の5項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	保健体育					科目	体育
クラス又は班	31	32	33	34	35	単位数	使用教科書・教材
担当者						3	現代保健体育・ステップアップスポーツ

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
知識・技能を問う問題について、おおむね解答することができる。学習した内容の知識・技能についてよく書き出している。学習した内容の知識・技能についてよく発言している。	思考・判断・表現を問う問題に対して積極的に取り組み、おおむね解答できる。自分の考えをよく書き出したり、まとめることができる。自分の考えをよく発言したりまとめることができる。	欠席・遅刻なく授業に参加している。ルールを守り、話や指示をよく聞きながらも、積極的に自分の意見を発言し、周りの生徒と協力することができる。授業を振り返り、客観的に取り組みを見直すことができる。

学期(月)	指 導 項 目	指 導 内 容	評価基準			予 定 時 数
			知	思	態	
1 学 期	4 オリエンテーション 体づくり		○	○	○	5
	5 スポーツテスト 体育祭練習	各種スポーツテスト	○	○	○	10
	6 バスケットボール バドミントン サッカー	・ゲームに必要な力の育成 ・ゲームにおけるポジショニングと戦術理解 ・実践で培われる力の育成 ・ゲーム ・実践で培われる力の育成 ・ゲーム	○	○	○	15
	7 水泳	・サイドアタックを使ったゲーム ・クロール(けのび、片手クロールなど) ・平泳ぎ(顔あげ練習、タイミング練習など)	○	○	○	10
2 学 期	9 水泳	・背泳ぎ(仰向けキック、片手プルなど) ・バタフライ(タイミング練習、片手バタフライなど) ・個人メドレー練習、タイムトライアル	○	○	○	10
	10 テニス ソフトボール バレーボール	・より高い技能の習得 ・個人技能の修得(打つ、捕る、投げるなど) ・ゲームを楽しむための技術の習得	○	○	○	15
	11 バドミントン	・ゲームを楽しむための技術の習得 ・ゲームの運営	○	○	○	15
	12 サッカー	・ゲームを楽しむための技術の習得 ・ゲームの運営	○	○	○	10
3 学 期	1 バスケットボール	・ゲームを楽しむための技術の習得 ・ゲームの運営	○	○	○	10
	2 卓球	・ゲームを楽しむための技術の習得 ・ゲームの運営	○	○	○	5
	3					

評価の方法	・知識及び技能 ・思考力、判断力、表現力等 ・主体的に学習に取り組む態度等 以上の点を総合的に見て評価する。
備考	



令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	保健体育	科目	スポーツⅡ
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	ステップアップ高校スポーツ

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
技能について、指示された記録や目標とする動きにおおむね達成している。学習した内容の知識・技能についてよく書き出している。学習した内容の知識・技能についてよく発言している。	自分の考えをよく書き出したり、まとめることができる。自分の考えをよく発言したり、まとめることができる。周りの生徒と協力し、的確なアドバイスをすることができる。	欠席・遅刻なく授業に参加している。ルールを守り、話や支持をよく聞き、準備や片付けを積極的に行う。ことができる。授業を振り返り、客観的に取り組みを見直すことができる。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
			知	思	態	
1 学 期	4 オリエンテーション ハンドボール	基本技術の習得	○	○	○	30
	5 ハンドボール	発展・チーム練習・ゲームの実施	○	○	○	
	6 ハンドボール	基本技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	
	7 バドミントン	基本技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	
2 学 期	9 バスケットボール	基礎技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	34
	10 バスケットボール	基礎技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	
	11 サッカー	基礎技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	
	12 サッカー	基礎技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	
3 学 期	1 バレーボール	基礎技術の習得 個人技能の習得 ゲーム	○	○	○	6
	2					
	3					

年間予定授業時間数

70

評価の方法	・知識及び技能 ・思考力、判断力、表現力等 ・主体的に学習に取り組む態度等 以上の点を総合的に見て評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	外国語					科目	英語コミュニケーション応用
クラス又は班	31	32	33	34	35	単位数	使用教科書・教材
担当者						2	COMET English Communication II(数研出版) / コーパス1800

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
基本単語や基礎的な文法事項の定着により、身近な内容の英単語や英会話の読み書きができる。	初見の英語表現であっても、既習の内容から推測、思考および判断し、自己表現につなげることができる。	ワークシート、リスニング、スピーキング課題に取り組むことができる。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
			知	思	態	
1 学期	4 クラス分けテスト オリエンテーション 2学年の復習	1,2年で習ったことを復習し、基礎基本を定着させる。授業におけるねらい、注意事項や心構えを確認する。2年生の学習を復習し、3年生の学習につなげる。	○	○	○	31
	5 Lesson 1 Places worth visiting	教科書の内容理解、文法の基礎基本を定着させる。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	
	6 Lesson 1 Places worth visiting 学期末確認テスト	教科書の内容理解、文法の基礎基本を定着させる。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	
	7 テスト返却とふりかえり 1学期のまとめ	1学期に学習した内容をふりかえり、定着させる。ALTとのコミュニケーション活動、会話表現などの演習	○	○	○	
2 学期	9 Lesson 5 Goal Setting	教科書の内容理解、文法の基礎基本を定着させる。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	31
	10 Lesson 5 Goal Setting	教科書の内容理解、文法の基礎基本を定着させる。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	
	11 Lesson 5 Goal Setting 学期末確認テスト準備	教科書の内容理解、文法の基礎基本を定着させる。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	
	12 学期末確認テスト 2学期のまとめ	2学期に学習した内容をふりかえり、定着させる。ALTとのコミュニケーション活動、会話表現などの演習	○	○	○	
3 学期	1 1年間のまとめ 英単語・文法の復習	教科書の総復習をする。基礎基本の定着。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	8
	2 1年間のまとめ 英単語・文法の復習	教科書の総復習をする。基礎基本の定着。英語で積極的にコミュニケーションを取ろうとする態度を育成する。	○	○	○	
	3					

年間予定授業時間数

70

評価の方法	ワークシート、提出物の完成度と提出状況 ペア、グループワークへの参加、コミュニケーション活動への意欲。 リスニング、スピーキング、単語、文法テストによる学習到達度 上記項目を観点別に評価し、評定を算出する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	外国語(英語)	科目	論理・表現 I
クラス又は 班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	CROWN Logic and Expression I

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
東京の工業高校生として自身の考えを表すのに必要な単語の知識、および正確に聞き取ったり読んだりする技能を身につける。	東京の工業高校生として自身の考えを表すのに必要な表現力、聞きとる力を身につける。	東京の工業高校生として自身の考えを表す際に、わからないことがあっても話すこと、読むこと、聞くこと、書くことを継続しようとしている。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
			知	思	態	
1 学 期	4 オリエンテーション 過去形	自己紹介 スピーキングとライティングの活動	○	○	○	6
	5 進行形 未来表現	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	○	○	○	8
	6 現在完了形 助動詞	リーディングとスピーキングの個別テスト ライティングとリスニングの活動	○	○	○	8
	7 1学期末確認テスト	1学期の復習	○	○	○	6
2 学 期	9 不定詞 動名詞	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	○	○	○	8
	10 受動態 分詞 関係代名詞	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	○	○	○	8
	11 比較 知覚動詞/使役動詞	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	○	○	○	8
	12 2学期末確認テスト	2学期の復習	○	○	○	6
3 学 期	1 3学年総復習	スピーキングとライティングの活動 ライティングとリスニングの活動	○	○	○	6
	2 学年末確認テスト	1年間の総復習	○	○	○	6
	3					

年間予定授業時間数

70

評価の方法	定期的実施する試験・提出物・授業での日々の取り組みを評価の対象とする。 欠席・遅刻等が多い場合や授業態度が悪い場合は、マイナス評価とする。 関心・意欲・態度、表現の能力、理解の能力、知識・理解の観点から総合的に判断して評価をつける。 リーディングとスピーキングは個別テストを実施し、評価する。 リスニング、ライティングも実施し、評価の対象とする。
備考	・基礎基本に根ざした問題練習で確かな学力の定着を目指す。 ・「学びなおし」による基礎をもとに、英検に対応できる力を育成する。 ・自分の考えを伝えるため、ライティングの技術にも力を入れ、発展的表現方法を学ぶ。

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	家庭科	科目	家庭演習
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	図説 家庭基礎 実教出版

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
衣食・保育についてその科学を理解しているとともに、それに関わる技能を身につけている。	製作・実習・実験・を思考しながら行う。家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践し、考察したことを表現するなどして課題を解決する力を身につけている。	課題の解決に主体的に取り組む、振り返って改善し実践し、探究しようとする態度を身に付けている。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
				知	思	態	
1 学期	4	ガイダンス	授業内容の確認	○	○	○	30
	5	衣生活をつくる	糸と織物について。 手ぬぐいで包む 手ぬぐいでつくる	○	○	○	
	6	衣生活をつくる	編み物(ゆびあみ) 編み物(カギ編み)	○	○	○	
	7	衣生活をつくる	刺繍糸で作る(ミサンガ) 刺繍糸で作る(クロスステッチ)	○	○	○	
2 学期	9	食生活をつくる	調理の基礎・調理実習(和菓子:ちんすこう) 調理の基礎・調理実習(和食:恵方巻) 調理の基礎・調理実習(伝統食:餅つき)	○	○	○	30
	10	食生活をつくる	調理の基礎・調理実習(洋菓子:ロッククッキー) 調理の基礎・調理実習(洋食:ピザ) 調理の基礎・調理実習(洋食:ハンバーガー)	○	○	○	
	11	食生活をつくる	調理の基礎・調理実習(洋菓子:シュークリーム) 調理の基礎・調理実習(洋菓子:チョコブラウニー) 調理の基礎・調理実習(砂糖の温度による変化・飴)	○	○	○	
	12	食生活をつくる	調理の基礎・調理実習(中華:中華粽) 調理の基礎・調理実習(中華:餃子)	○	○	○	
3 学期	1	子どもの遊び	子どもの遊び体験(折り紙で季節を表現) 子どもの遊び体験(折り紙で遊ぶ) 子どもの遊び体験(ブロック・コマまわし)	○	○	○	10
	2			○	○	○	
	3			○	○	○	

年間予定授業時間数

70

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物等) 2.実験、実習(実験の取り組み、課題の出来ばえ、創意工夫等) 3.提出物(授業プリント、ノート、実験レポートの提出と取り組み状況) 4.小テスト(単元ごとに実施) 5.確認テスト(学期に3回実施) 以上の5項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。
備考	

東京都立練馬工科高等学校

評価の方法	・出欠席状況、授業態度、各種提出物、確認テストの成績により総合的に評価をする。 ・実習中に説明した内容を、自主的に実技課題を行い、実技と知識が理解できている。
備 考	・テーマの中から1テーマを選択し年間を通して学習する。

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術		科目	系列実習(機械加工技術系列)				
クラス又は班		3年1組		単位数	使用教科書・教材				
担当者				3	機械実習				
教科・科目のねらい(目標)									
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】			
機械加工技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			機械加工技術系列の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。			機械加工技術系列の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。			
学期	(月)	指導項目	指導内容			評価基準			予定時数
						知	思	態	
1学期	4	・レーザー加工 ・板金加工 ・フライス加工	モノづくり基礎であるフライス盤・板金加工・レーザー加工・CAD、CAMの基本操作を学習し、作品制作への理解を深める。 ①サイコロ制作 ②スコップ ③ペン立て ④ちりとり ⑤コースター ⑥スマホスタンド 1クラスを3ショップに分け、6～7週を基準としてローテーションを行う。			○	○	○	105
	5								
	6								
	7								
2学期	9								
	10								
	11								
	12								
3学期	1								
	2								
	3								
評価の方法		1. 授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物、服装) 2. 技能・技術(到達度、さくっぴんや課題の出来栄え、創意工夫) 3. 報告書(内容、提出状況) 以上の3項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。							
備考									

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	製図
クラス又は班	3年1組	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	機械製図【工業707】

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
機械加工技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	機械加工技術系列の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の発展に対応し解決する力を養う。	機械加工技術系列の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
				知	思	態	
1 学 期	4	基礎製図の概要と基礎製図検定への取り組み	製図の基本である三角法、投影図、不足線、断面図、補助投影図、断面図、展開図などの知識・技術の習得を目指し、実践的に理解する。	○	○	○	30
	5	基礎製図の概要と基礎製図検定への取り組み	製図の基本である三角法、投影図、不足線、断面図、補助投影図、断面図、展開図などの知識・技術の習得を目指し、実践的に理解する。	○	○	○	
	6	基礎製図の概要と基礎製図検定への取り組み	製図の基本である三角法、投影図、不足線、断面図、補助投影図、断面図、展開図などの知識・技術の習得を目指し、実践的に理解する。	○	○	○	
	7	確認テスト		○	○	○	
2 学 期	9	基礎製図の概要と基礎製図検定への取り組み	製図の基本である三角法、投影図、不足線、断面図、補助投影図、断面図、展開図などの知識・技術の習得を目指し、実践的に理解する。	○	○	○	35
	10	基礎製図の概要と基礎製図検定への取り組み	製図の基本である三角法、投影図、不足線、断面図、補助投影図、断面図、展開図などの知識・技術の習得を目指し、実践的に理解する。	○	○	○	
	11	簡単な器具の設計製図 機械製図の概要	製図の基本からさらに機械製図へ専門的な知識・技能の取得を目指して、作図により、立体図と投影図の関係を実践的に理解する。	○	○	○	
		機械製図の概要 確認テスト	寸法記入法、寸法補助記号、穴や玉、角度、テーパなどの寸法記入、寸法公差・はめあい、幾何公差・表面性状、材料記号、溶接記号、機械要素の図示などの知識	○	○	○	
3 学 期	1	機械製図の概要と機械製図検定への取り組み	機械部品の立体図を見て、第三角法による投影図を正しく、わかりやすく、見栄えよく書けるように作図能力を身に付ける。	○	○	○	5
	2	確認テスト		○	○	○	
	3						

年間予定授業時間数

70

評価の方法	授業態度・授業の参加状況及び作品・図面の正しさ・見ばえ・寸法記入など完成度、小テストなどを総合的に判断し、評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	機械設計応用
クラス又は班	3年1組	単位数	使用教科書・教材
担当者		3	実教出版 機械設計1 実教出版 機械設計2

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
機械設計の各分野について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した機械設計の意義や役割を理解している。	機械設計に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける	機械設計に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

学期	(月)	指 導 項 目	指 導 内 容	評価基準			予 定 時 数
				知	思	態	
1 学 期	4	第三章					45
		1. せん断・せん断応力	せん断・せん断力・せん断応力について理解させる。	○	○	○	
		2. せん断ひずみ	せん断ひずみ・せん断変形について理解させる。	○	○	○	
	5						
		3. 横弾性係数	フックの法則、横弾性係数について理解させる。	○	○	○	
		4. 熱応力、線膨張係数	熱応力、線膨張係数・計算の仕方を理解させる。				
	6	5. 破壊の原因	静荷重・動荷重・応力集中・疲労について理解させる。	○	○	○	
		6. 材料の機械的性質	延性材料・脆性材料、応力一ひずみ線図を理解させる。	○	○	○	
	7	7. 許容応力と安全率	使用応力・許容応力と安全率・計算の仕方を理解させる。	○	○	○	
確認テスト		1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題)	○	○	○		
		答案返却					
2 学 期	9						45
		8. はりの種類と荷重	はりの種類、はりに加わる荷重・計算の仕方を理解させる。	○	○	○	
		9. せん断力と曲げモーメント	せん断力と曲げモーメント・計算の仕方を理解させる。	○	○	○	
	10	10. せん断力図と曲げモーメント	せん断力図と曲げモーメント図を理解させる。	○	○	○	
		11. 曲げ応力と断面係数	曲げ応力と断面係数・計算の仕方を理解させる。	○	○	○	
	11	12. 断面の形状と寸法	断面係数から断面形状や寸法を求める方法を理解させる。	○	○	○	
	12	13. たわみ、はりを強くする工夫	たわみ、はりを強くする工夫について理解させる。	○	○	○	
14. 軸のねじり、座屈		ねじり応力と極断面係数について理解させる。					
確認テスト		2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題)・答案返却	○	○	○		
3 学 期	1	第八章					15
		1. リンク機構	リンク機構の特徴について理解させる。	○	○	○	
		2. カム機構	カム機構とカムの種類を理解させる。	○	○	○	
	2	3. 歯車の種類	歯車の種類・特徴・用途について理解させる。	○	○	○	
		4. 平歯車の設計	歯車各部の設計・計算の仕方を理解させる。	○	○	○	
		5. 歯車伝達装置	歯車列の速度伝達比・計算の仕方を理解させる。	○	○	○	
	3	学期確認テスト(一年間学習した内容から出題)					

年間予定授業時間数

105

評価の方法	・各授業ごとのプリント等の取組状況 ・ノートの板書状況及び提出 ・小テストの取組み内容・習得状況 ・出欠席状況 ・各学期末におこなう確認テストの状況と習得状況 以上を総合的に判断して評価する。
備考	※1クラス3展開の機械系の授業(座学)

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	機械工作基礎A
クラス又は班	3年1組	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	実教出版 機械工作1実教出版 機械工作2

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
機械工作の各分野について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した機械設計の意義や役割を理解している。	機械工作に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける。	機械工作に関する諸事情について関心を持ち、社会の改善・工場を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
				知	思	態	
1 学期	4	機械材料の性質	機械材料のあらし 機械材料に望まれる性質 おもな機械材料	○	○	○	30
	5	機械材料の性質	材料の機械的性質 金属材料の結晶と形状変化	○	○	○	
	6	炭素鋼	炭素鋼の性質と分類 純鉄の変体と結晶構造・炭素鋼の種類と用途・加工性	○	○	○	
	7	合金鋼 鋳鉄 確認テスト	合金鋼の種類 鋳鉄の組織と性質 1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題)	○	○	○	
2 学期	9	非鉄金属材料	アルミニウムの性質と加工性 マグネシウムの性質と加工性 チタンその他金属の性質と加工性	○	○	○	30
	10	非鉄金属材料 機能性材料	プラスチックの性質と加工性 セラミックスの性質と加工性 焼結合金 形状記憶合金 磁性材料等	○	○	○	
	11	切削加工1	切削速度の選定 送り量の選定 切込み	○	○	○	
	12	切削加工2 確認テスト	切削の仕組みと切りくずの形態 切削による熱 構成刃先とびびり 2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題)	○	○	○	
3 学期	1	工作機械	旋盤 フライス盤	○	○	○	10
	2	確認テスト		○	○	○	
	3						

年間予定授業時間数

70

評価の方法	授業態度・学期末確認テスト・出席・提出物を統合して、判断する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工

教科	キャリア技術科	科目	機械工作基礎E
クラス又は班	3年必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	実教出版 機械工作1 実教出版 機械工作2

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度】
機械工作の各分野について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した機械設計の意義や役割を理解している。	機械工作に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける。	機械工作に関する諸事象について、社会の改善・向上を目指して工業の発展に主体的・協動的な創造的・実践的な態度を身に付ける。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準	
				知	思
1 学期	4	機械材料	機械材料の概要について 機械材料に望まれる性質 おもな機械材料	○	○
	5	機械材料	機械的性質とその試験方法 金属材料の結晶と状態変化 金属材料の加工性	○	○
	6	炭素鋼	鉄鋼の製法・炭素鋼の性質と分類	○	○
		合金鋼	純鉄の変体と結晶構造・炭素鋼の種類と用途・加工性 合金鋼・特殊鋼の種類と特色	○	○
	7	鋳鉄 確認テスト	鋳鉄の組織と性質 1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題)	○	○
2 学期	9	非鉄金属材料	アルミニウムとその合金 マグネシウムとその合金 チタンとその合金	○	○
	10	非金属材料	プラスチックの生成・種類と特徴 セラミクスについて	○	○
		各種の材料	焼結合金 形状記憶合金 磁性材料等	○	○
	11	切削加工1	切削加工の概要(切削工具、工作機械と切削工具の運動) 主な工作機械と切削工具(旋盤・フライス盤・ボール盤など) 切削工具と切削条件(切削速度・送り速度など)	○	○
	12	切削加工2 確認テスト	切削理論(切削の仕組みと切りくずの形態・切削油剤・切削抵抗) 砥粒加工の概要について 2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題) 答案返却	○	○
3 学期	1	工作機械	旋盤・フライス盤・ボール盤 歯切り盤・中ぐり盤など	○	○
	2				
	3	学期確認テスト(1年間学習した内容から出題)			

年間予定授業時間数

授業態度・学期末確認テスト・出席・提出物等を総合して、評価する、

評価の方法	
備 考	

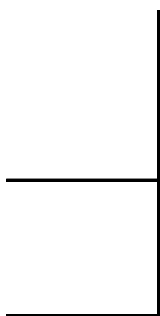
科高等学校

}
f
:

む態度等】

へて関心をも
 て、自ら学び、
 態度および創
 意としてい

準 態	予 定 時 数
○	30
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	30
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	
○	10
○	
○	
	70



東京都立練馬工科高等学校

年間予定授業時間数

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	系列実習(自動車技術)			
クラス又は班		3年2組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						3				
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
工業の専門分野に関する基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させ、技術革新に主体的に対応でき自動車技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術を身に付けるようにする。			自動車系列の整備技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。			自動車技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
学期	(月)	指導項目	指導内容				評価基準			予定時数
							知	思	態	
1学期	4	前半 シャン実習	① 車の点検整備(タイヤチェンジャーの取り扱い) ② 車の点検整備(タイヤの点検) ③ 車の点検整備(ブレーキパットの交換) ④ 車の点検整備(ブレーキオイルの点検)							45
	5	前半 エンジン実習	① エンジンの分解整備(ロビンエンジンの分解・計測) ② エンジンの分解整備(ロビンエンジンの組み立て) ③ エンジンの分解計測 ④ エンジンの分解計測							
	6									
	7	前半 電装品実習	① バッテリーの点検 ② 各電装設備の点検 ③ ヒューズの点検作業 ④ 各種点灯ライトの点検							
2学期	9	後半 シャン実習	① シャンダイナモの取り扱い ② シャンダイナモを使った各種走行点検 ③ 日常点検及びエンジンオイル交換				○	○	○	45
	10									
	11	後半 エンジン実習	① 直列4気筒エンジンの点検・測定 ② 直列4気筒エンジンの組み立て ③ ガソリンエンジン性能試験(全負荷)							
	12									
3学期	1	後半 電装品実習	① スタータモータの分解・点検・組立 ② オルタネータの分解・点検・組立 ③ ダイアグテスターによる点検作業							15
	2									
	3									
年間予定授業時間数										105

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物、服装等) 2.技能・技術(到達度、作品や課題の出来ばえ、創意工夫) 3.報告書(内容、提出状況) 以上の3項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。
備考	1クラスを3ショップに分け、3～4週を基準としてローテーションを行う。

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	原動機			
クラス又は班		3年2組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						2	7実教出版「763原動機」			
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
原動機の基礎的な知識や技術の理解はもとより、社会のいろいろな場面での問題解決を試みることができるようにそれらを相互に関連させて理解している。また、原動機にかかわる知識や技術をいろいろな場面で活用できる。			原動機にかかわるさまざまな事象やそれぞれの問題点を把握して分析し、それらに対処するために、これまでに習得した知識や技術などを活用することができる。また、解決する考え方やその方策を論理的かつ創造的に表現することができる。			原動機にかかわる基礎的な知識や技術への関心とその習得に意欲があり、主体的に学習することができる。また、既存の知識・技術と新たに学習した事柄をまとめて、合理的な生産方法を考え、実際に活用しようとしている。				
学期	(月)	指導項目	指導内容			評価基準			予定時数	
						知	思	態		
1学期	4	エネルギーの利用と変換	人類の進歩にともなうエネルギーの利用と原動機の発展の過程を系統的に把握させ、いろいろなエネルギーと原動機の関係や特徴を理解させる。			○	○	○	25	
	5	流体機械のあらまし	いろいろな流体機械と、それらの利用例を把握させ、流体の性質や流体の力学など流体機械の基礎にかかわることがらについて、興味や関心を持たせる。			○		○		
	6	流体機械の基礎	流体の基本的な性質を把握させたのち、流体にかかわる力学的な考えを理解させ、流体機械の適切な活用方法を把握させる。			○	○			
	7	流体の計測	流体にかかわる力学的な考え方をもとにして、流体の圧力、流速、流量などの測定方法を理解させ、各流体に応じた計測法を把握させる。			○	○			
2学期	9	ポンプ・水車	ポンプ・水車の原理、構造、種類を把握させ、流体のエネルギーをより有効に利用する方法を理解させる			○	○	○	35	
	10	内燃機関のあらまし 熱機関の基礎	内燃機関の種類と分類を概観させ、その適切な利用法を把握させる。 熱機関のサイクルと熱効率を理解させて、熱機関を有効に活用できるようにするために、熱に関するいろいろな現象を定性的に把握させ、さらに変化にともなういろいろな量を定量的に扱えるように理解させる。			○	○	○		
	11	レシプロエンジンの構造・性能と運転	・レシプロエンジンの作動原理と、それが理論熱効率に及ぼす影響を理解させる。 ・作動中のレシプロエンジン各部の相互の作動と、それが性能に及ぼす影響について理解できるように、各部の構造と機能を把握させる。			○		○		
	12	ガスタービン	ガスタービンの作動原理、構造、用途などを把握させ、さらに基本サイクルを理解させる。			○	○			
3学期	1	蒸気動力プラントのあらまし 冷凍装置	蒸気圧縮冷凍機の原理、構成、各機器の働きと、冷媒の状態変化、冷凍サイクル、冷凍機の性能と運転などについて理解させる。			○		○	10	
	2	まとめ								
	3									
						年間予定授業時間数			70	

評価の方法	1. 授業内プリントやノートの提出状況、課題の取り組み状況を判断し評価する。 2. 定期考査の代替で授業内テストを行い知識の理解度と意欲から評価する。 3. 授業中の平常点を加味し、出席点、態度から評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	基礎自動車工学				
クラス又は班		3年2組				単位数	使用教科書・教材				
担当者						3	実教出版 自動車工学1、2 日本自動車整備振興会連合会 基礎自動車工学				
教科・科目のねらい(目標)											
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】					
自動車及び自動車を構成する各部分の基礎的・基本的な構造と機能を理解させ、関連する 原理について基本的な内容を把握させる。			自動車は多種多様な部品を結合させた総合体のため、様々な相互の関連を理解させる。			自動車は多種多様な部品の相互の関連を確かめ様々な学習の力学、工学、数学などの集合体であることを自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うようにしている。					
学期	(月)	指 導 項 目		指 導 内 容			評価基準			予 定 時 数	
							知	思	態		
1 学 期	4	自動車の構造と概要		オリエンテーション(授業の説明)、指導方針と評価基準 1. 自動車の分類と構造 2. 自動車の諸元			○	○	○	45	
	5	自動車の力学		1. 速度・加速度 2. 運動エネルギー 3. 材料の強さ			○	○	○		
	6	内燃機関の種類		内燃機関の種類(作動、燃焼、点火方式など) 自動車から排出される大気汚染と浄化対応策 ガソリンエンジン機関 (4サイクルガソリンエンジン)			○	○	○		
	7	確認テスト		その他 ロータリエンジン、ハイブリットエンジン 液化ガス、電気自動車			○	○	○		
2 学 期	9	動力伝達装置		1. クラッチ 2. 変速装置 マニュアルトランスミッション オートマチックトランスミッション			○	○	○	45	
	10			3. 駆動装置 自動車の変速比と車の速度 ホイール、タイヤ、			○	○	○		
	11	ブレーキ装置の概要と特性		1. 構造と作用			○	○	○		
	12	確認テスト 走行装置とかじ取り装置		1. 懸架装置(サスペンション)の構成 2. ボデーとフレーム			○	○	○		
3 学 期	1	自動車保安装置類 日常点検		3. ステアリング装置 保安装置と電装品と電子装置 基本的な電気回路 日常点検と定期点検			○	○	○	15	
	2	確認テスト					○	○	○		
	3										

評価の方法	1. 授業内プリントやノートの提出状況、課題の取り組み状況を判断し評価する。 2. 定期考査の代替で授業内テストを行い知識の理解度と意欲から評価する。 3. 授業中の平常点を加味し、出席点、態度から評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	基礎自動車整備A
クラス又は班	3年2組	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	実教出版 自動車整備

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
自動車整備の各分野について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した自動車整備の意義や役割を理解している。	自動車整備に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける	自動車整備に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
				知	思	態	
1 学 期	4	自動車の整備と関係法規	整備の目的	○	○	○	30
			整備の内容	○	○	○	
	5	自動車の整備と関係法規	自動車整備事業	○	○	○	
			道路運送車両法	○	○	○	
	6	自動車の材料と加工法	材料の特性および加工法	○	○	○	
		車体の整備					
	7	確認テスト	1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題) 答案返却	○	○	○	
2 学 期	9	エンジンの整備	エンジンオイル交換	○	○	○	30
			スパークプラグ交換	○	○	○	
	10	舵取り装置	ステアリング装置の点検整備方法	○	○	○	
			懸架装置の点検整備方法	○	○	○	
	11	ブレーキ装置	ディスクブレーキの整備点検方法	○	○	○	
			ドラムブレーキの整備点検方法	○	○	○	
	12	電気装置	オルタネータの点検整備方法	○	○	○	
			スタータの点検整備方法	○	○	○	
		確認テスト	2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題)・答案返却	○	○	○	
3 学 期	1	動力伝達装置	トランスミッションの構造について	○	○	○	10
		排気ガスと環境	自動車と環境問題	○	○	○	
	2	まとめ	自動車整備まとめ	○	○	○	
		学期確認テスト(一年間学習した内容から出題)		○	○	○	
	3						
			年間予定授業時間数				70

評価の方法	- 各授業ごとのプリント等の取組状況 - ノートの板書状況及び提出 - 小テストの取組み内容・習得状況 - 出欠席状況 - 各学期末におこなう確認テストの状況と習得状況 以上を総合的に判断して評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科		科目	基礎自動車整備B			
クラス又は班		3学年 必修選択		単位数	使用教科書・教材			
担当者				2	実教出版 自動車整備			
教科・科目のねらい(目標)								
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】		
自動車整備の各分野について、基礎的な知識と技術を身に付け実践的に自動車整備の意義や技術を理解している。			自動車整備に関する課題を発見し、思考・判断力に基づいて、合理的に課題解決について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける。			自動車整備に関する諸事象について関心をもち、自ら学び、自動車の整備に対する知識を主体的・協働的に身に付ける態度を養う。		
学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数	
				知	思	態		
1 学期	4	自動車の整備と関係法規	整備の目的	○	○	○	30	
			整備の内容	○	○	○		
	5	自動車の整備と関係法規	自動車整備事業	○	○	○		
			道路運送車両法	○	○	○		
	6	自動車のしくみと各部の関	材料の特性および加工法	○	○	○		
		エンジン内部のしくみ		○	○	○		
		エンジンの点火装置のしくみ		○	○	○		
	7							
確認テスト		1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題)	○	○	○			
2 学期	9	エンジンの整備	エンジンオイル交換	○	○	○	35	
			スパークプラグ交換	○	○	○		
	10	舵取り装置	ステアリング装置の点検整備方法	○	○	○		
			懸架装置の点検整備方法	○	○	○		
	11	ブレーキ装置	ディスクブレーキの整備点検方法	○	○	○		
			ドラムブレーキの整備点検方法	○	○	○		
	12	タイヤの交換	タイヤの点検整備方法	○	○	○		
確認テスト		2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題)・答案返却	○	○	○			
3 学期	1	動力伝達装置	トランスミッションの構造について	○	○	○	5	
		排気ガスと環境	自動車と環境問題	○	○	○		
	2	まとめ	自動車整備まとめ	○	○	○		
		学期確認テスト(一年間学習した内容から出題)		○	○	○		
	3							
					年間予定授業時間数		70	

評価の方法	- 各授業ごとのプリント等の取組状況 - ノートの板書状況及び提出 - 小テストの取組み内容・習得状況 - 出欠席状況 - 各学期末におこなう確認テストの状況と習得状況 以上を総合的に判断して評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術				科目	課題研究・設備系列			
クラス又は 班						単位数	使用教科書・教材			
担 当 者						3				
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
工業に関する課題を設定し、専門的な知識と技術の進化、総合化を図る。			工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、総合化を図る。			問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。				
学期	(月)	指 導 項 目		指 導 内 容			評価基準			予 定 時 数
							知	思	態	
1 学 期	4	課題研究のテーマ 課題研究の年間計画		一年間継続的に学習する課題研究のテーマを考える。 一年間の研究計画を作成する。			○	○	○	45
	5	基本的な技術の修得		研究に必要な基本的な知識を修得するために、調べ学習 研究に必要な基本的な技術を修得する。			○	○	○	
	6	情報収集 試作品を作成する		課題のテーマに必要な情報を収集する 課題の試作をする。			○	○	○	
	7	情報整理 試作品検討		収集した情報を整理する。 試作品を再検討する。			○	○	○	
2 学 期	9	情報検討 課題作成		情報を検討し、テーマに必要な情報を精選する。 テーマに適合した作品を制作する。			○	○	○	45
	10	情報統合 レイアウト検討		整理した情報を検討し統合する。 作品の製作を行う。 作品の概要を完成させる。			○	○	○	
	11	作品完成 研究の完成		作品を完成させる。 研究内容を検討し結論をまとめる。			○	○	○	
	12	課題研究のまとめ		課題研究のまとめ、不足している内容を補う。 結果・作品の再検討、検証、調整を行う。 課題・成果について検討する。			○	○	○	
3 学 期	1	課題研究発表会準備 系列内発表会		課題研究の成果・課題をまとめ、発表の準備をする。 発表のための資料を準備する。 課題研究発表会の練習をする。			○	○	○	15
	2	課題研究発表会(1,2年向)		発表のための不足している資料を補充する。 一年間学習した成果を在校生に発表する。			○	○	○	
	3									

評価の方法	実習への取り組み(関心・意欲・態度)及び報告書の内容(思考、判断、知識、理解)や作品の技能、表現などを総合して評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	系列実習(設備技術)			
クラス又は班		3年3組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						3				
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
設備系列の技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			設備系列の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。			設備系列の技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。				
学期	(月)	指導項目	指導内容			評価基準			予定時数	
						知	思	態		
1学期	4	電気機器	抵抗の直並列回路			○	○	○	33	
			各種計器の取り扱い			○	○	○		
	5	単相交流電力			○	○	○			
		積算電力計			○	○	○			
		変圧器の特性			○	○	○			
	6	PLCを用いたシーケンス回路			○	○	○			
7										
2学期	9	エアコン・電気工事	エアコン取り外し、ポンプダウン、石膏ボードの取り付け			○	○	○	48	
		水回りの整備	エアコン・電灯回路の電源工事			○	○	○		
			室内機の取り付け、フレアー加工、室内機と室外機の接続			○	○	○		
	10	金属管の切断、ねじ切り、S字曲げ等、加工作業			○	○	○			
		埋め込みスイッチ、パイロットランプの配線、加工作業			○	○	○			
		洗面台の設置工事、水道工事			○	○	○			
	11									
12										
3学期	1	電気工事	電気工事士実技試験の模擬問題			○	○	○	24	
			ブレッドボードを用いた論理回路の実習							
	2									
	3	※ 上記の3項目をローテーションして実習形式の授業を行う								
						年間予定授業時間数			105	

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物、服装等) 2.技能・技術(到達度、作品や課題の出来ばえ、創意工夫) 3.報告書(内容、提出状況)	
	以上の3項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。	
備考		

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	電力技術基礎
クラス又は班	3年3組	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	電力技術1・2(実教出版)

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
電力技術について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した電力技術の意義や役割を理解している。	電力技術に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける	電力技術に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
			知	思	態	
1 学 期	4	各国の発電、発電方式	○	○	○	24
		エネルギーと環境問題	○	○	○	
		一次エネルギーと二次エネルギー	○	○	○	
	5	水力発電	○	○	○	
		水力発電の概要	○	○	○	
		物理から考える理論水力	○	○	○	
		水車の種類	○	○	○	
	6	火力発電	○	○	○	
2 学 期		火力発電の概要	○	○	○	24
		物理から考える蒸気と熱サイクル	○	○	○	
		火力発電所設備	○	○	○	
	7	原子力発電	○	○	○	
		原子力発電の理解	○	○	○	
3 学 期	9	送電方式と送電線路	○	○	○	24
		送電の方法	○	○	○	
		架空送電線路の基礎	○	○	○	
	10	配電系統と配電路	○	○	○	
		配電線路の構成	○	○	○	
		配電線路の保護・保安	○	○	○	
	11	屋内配線	○	○	○	
		自家用電気設備の概要	○	○	○	
4 学 期		屋内配線	○	○	○	22
		電気に関する法規	○	○	○	
	12	照明	○	○	○	
		光と放射エネルギー、光の基本量	○	○	○	
		光源	○	○	○	
		照明設計	○	○	○	
	1	各種電力応用の技術	○	○	○	
		自動制御	○	○	○	
5 学 期		電気化学	○	○	○	22
		電気鉄道等	○	○	○	
	2					
	3					
					年間予定授業時間数	70

評価の方法	授業態度・学期末確認テスト・出席・提出物等を総合して、判定する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	電子技術基礎
クラス又は班	3年3組、3年4組	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	電子技術(実教出版)

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
電子技術について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した電子技術の意義や役割を理解している。	電子技術に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける	電子技術に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

学期(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
			知	思	態	
1 学期	4	半導体素子	○	○	○	20
		原子と電子、半導体	○	○	○	
	5	ダイオード、トランジスタ	○	○	○	
		電界効果トランジスタ	○	○	○	
		集積回路	○	○	○	
	6	アナログ回路	○	○	○	
		増幅回路の基礎	○	○	○	
			○	○	○	
	7	確認テスト	○	○	○	
2 学期	9	いろいろな増幅回路	○	○	○	34
		発振回路	○	○	○	
		変調回路と復調回路	○	○	○	
	10	ディジタル回路とパルス回路	○	○	○	
		アナログ-ディジタル変換器	○	○	○	
			○	○	○	
	11	通信システムの基礎	○	○	○	
			○	○	○	
		音響・映像機器の基礎	○	○	○	
	12	確認テスト	○	○	○	
3 学期	1	電子計測の基礎	○	○	○	16
			○	○	○	
			○	○	○	
	2	確認テスト				
	3					

年間予定授業時間数

70

評価の方法	各授業または単元毎のプリントの取組状況、出来具合 定期的なノート提出及び板書状況 単元毎のまとめテストの出来具合の状況 出欠席状況及び日々の取組状況 以上を総合的に判断して評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	電気回路応用		
クラス又は班		33	34			単位数	使用教科書・教材		
担当者						2	実教出版 精選電気回路		
教科・科目のねらい(目標)									
【知識及び技能】				【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】		
電氣的諸量の相互関係を理解し、それらを式の変形や計算により求めることができる。電気に関する諸量を測定するための基本的な技術をもっている。				いろいろな電気現象がなぜ起こるかを自ら学び、自ら考えることができる。また、基礎的・基本的な知識をもとに電気現象を数学的に考察し、表現することができる。			電気の諸現象に関心を持ち、学習に意欲的に取り組み、学習態度が真剣である。		
学期	(月)	指導項目		指導内容		評価基準			予定時数
						知	思	態	
1学期	4	正弦波交流		周期と周波数の関係、実効値と最大値、複素数とベクトルの関係の理解		○	○	○	25
	5	複素数		正弦波交流、複素数を用いた交流回路の計算の理解		○	○	○	
		記号法による交流回路の計算				○	○	○	
	6	共振回路		直列共振と並列共振の理解		○	○	○	
		交流回路の電力		有効電力・皮相電力・無効電力と力率の理解		○	○	○	
	7	確認テスト		1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題)		○	○	○	
				答案返却		○	○	○	
		三相交流		三相交流回路における電流と電圧の関係の理解		○	○	○	
2学期	9	測定量の取り扱い		誤差について理解し、真の値と測定値から誤差と誤差率を求めることができる。		○	○	○	35
						○	○	○	
	10	電気計器の原理と構造		各種電気計器の原理の理解		○	○	○	
				それぞれの計器の特徴や用途の理解		○	○	○	
	11	基礎量の測定		測定した値が、正しいか考察し、導き出した結論の理解		○	○	○	
						○	○	○	
	12	確認テスト		2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題)		○	○	○	
				答案返却		○	○	○	
		非正弦波交流		非正弦波交流の成分を理解し、これを数式で表す		○	○	○	
3学期	1	過渡現象		過渡現象の概念、RL回路やRC回路の過渡現象の理解		○	○	○	10
						○	○	○	
	2	確認テスト		3学期確認テスト(3学期学習した内容から出題)		○	○	○	
				答案返却		○	○	○	
	3								

評価の方法	1.知識・技能(学期末確認テスト) 2.思考・判断・表現(小テスト) 3.主体的な学習に取り組む意欲・態度(提出物)
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	電気工事
クラス又は班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
電気工事について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	電気工事に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	電気工事士に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
				知	思	態	
1 学 期	4	第二種電気工事士試験の概要 実技試験対策	試験制度の説明	○	○	○	25
			工具の使用方法	○	○	○	
	5	実技試験対策	単線図から複線図への変換	○	○	○	
			工具の使用方法				
			ケーブルの切り出し				
	6	実技試験対策	第二種電気工事士 公表問題への取り組み	○	○	○	
2 学 期	9	実技試験対策	第二種電気工事士 公表問題への取り組み	○	○	○	35
	10	実技試験対策	第二種電気工事士 公表問題への取り組み	○	○	○	
	11	実技試験対策	第二種電気工事士 公表問題への取り組み	○	○	○	
3 学 期	1	実技試験対策	第一種電気工事士 公表問題への取り組み	○	○	○	10
	2	学年末確認テスト対策	復習	○	○	○	
	3						

年間予定授業時間数

70

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物、服装等) 2.技能・技術(到達度、作品や課題の出来ばえ、創意工夫) 3.報告書(内容、提出状況) 以上の3項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	課題研究(電子コンピュータ技術系列)			
クラス又は班		3年4組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						3				
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
工業に関する課題を設定し、専門的な知識と技術の進化、総合化を図る。			工業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、総合化を図る。			問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。				
学期	(月)	指導項目	指導内容			評価基準			予定時数	
						知	思	態		
1学期	4	課題研究のテーマ 課題研究の年間計画	一年間継続的に学習する課題研究のテーマを考える。 一年間の研究計画を作成する。			○	○	○	45	
	5	基本的な技術の修得	研究に必要な基本的な知識を修得するために、調べ学習をする。 研究に必要な基本的な技術を修得する。			○	○	○		
	6	情報収集 試作品を作成する	課題のテーマに必要な情報を収集する 課題の試作をする。			○	○	○		
	7	情報整理 試作品検討	収集した情報を整理する。 試作品を再検討する。			○	○	○		
2学期	9	情報検討 課題作成	情報を検討し、テーマに必要な情報を精選する。 テーマに適合した作品を制作する。			○	○	○	45	
	10	情報統合 レイアウト検討	整理した情報を検討し統合する。 作品の製作を行う。 作品の概要を完成させる。			○	○	○		
	11	作品完成 研究の完成	作品を完成させる。 研究内容を検討し結論をまとめる。			○	○	○		
	12	課題研究のまとめ	課題研究のまとめ、不足している内容を補う。 結果・作品の再検討、検証、調整を行う。 課題・成果について検討する。			○	○	○		
3学期	1	課題研究発表会準備 系列内発表会	課題研究の成果・課題をまとめ、発表の準備をする。 発表のための資料を準備する。 課題研究発表会の練習をする。			○	○	○	15	
	2	課題研究発表会(1,2年向)	発表のための不足している資料を補充する。 一年間学習した成果を在校生に発表する。			○	○	○		
	3									

評価の方法	実習への取り組み(関心・意欲・態度)及び報告書の内容(思考、判断、知識、理解)や作品の技能、表現などを総合して評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	系列実習(コンピュータ)			
クラス又は班		3年4組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						4				
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
コンピュータ系列の技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。			コンピュータ系列の技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。			コンピュータ系列の技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養				
学期	(月)	指導項目	指導内容			評価基準			予定時数	
						知	思	態		
1学期	4	プログラミング	C言語によるプログラミング			○	○	○	33	
	5									
	6	製作	インターフェースボードの製作			○	○	○		
7										
2学期	9	表計算ソフト	Excelの操作			○	○	○	48	
	10									
		ワンボードマイコン	Arduinoの制御			○	○	○		
	11									
12										
3学期	1	アプリケーション	プレゼンテーションソフト			○	○	○	24	
	2									
	3	※ 上記の6項目をローテーションして実習形式の授業を行う								
						年間予定授業時間数			105	

評価の方法	1.授業態度(出欠・遅刻の状況、意欲、集中度、忘れ物、服装等) 2.技能・技術(到達度、作品や課題の出来ばえ、創意工夫) 3.報告書(内容、提出状況) 以上の3項目について総合的に判断し、評価の観点に従い評価する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術				科目	コンピュータシステム技術			
クラス又は班		3年4組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						2	コンピュータシステム技術(実教出版)			
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
コンピュータシステムを活用した情報処理の効率化に必要な資質・能力を育成する。			コンピュータシステム技術について情報処理システムの運用をふまえて理解し、関連する技術を身に付ける。			情報技術の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うことを目標とする。				
学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数			
				知	思	態				
1学期	4	第1章 コンピュータシステムの概要 1節 コンピュータシステムと情報システム	・コンピュータシステムの構築・運用と情報媒体・ネットワーク・データベースの技術の概要, これらを利用したコンピュータシステムの例について理解する。 ・情報媒体と人の感覚の特性やそれに応じたデジタル化技術および伝送方法・情報媒体の活用について理解する。	○	○	○	25			
	5	2節 コンピュータシステムに必要な技術 3節 コンピュータシステムの構築		○	○	○				
	6	第2章 情報のデジタル化 1節 情報媒体の概要		○	○	○				
		2節 情報のデジタル化技術 3節 情報の活用		○	○	○				
	2	第3章 ネットワーク技術 1節 データ通信の概要 2節 通信技術		○	○	○		35		
10	3節 ネットワークアーキテクチャ 4節 ネットワークシステム 5節 インターネットとの接続	○	○	○						
	11	6節 ネットワークシステムの運用・保守 7節 情報セキュリティ技術 第4章 データベース技術	○	○	○					
		12	1節 データベースの概念と構成 2節 関係データベースの設計 3節 関係データベースとSQL	○	○	○				
3学期	4節 データベースの利用 第5章 コンピュータシステムの開発と評価 1節 システム開発の基礎		・コンピュータシステムの開発手順と作業内容の概要, およびコンピュータシステムの保守管理について理解する。	○	○	○	10			
	2	2節 システム開発 3節 システムの評価と運用保守		○	○	○				
		3								

評価の方法	各授業または単元毎のプリントの取組状況、出来具合 定期的なノート提出及び板書状況 単元毎のまとめテストの出来具合の状況 出欠席状況及び日々の取組状況 以上を総合的に判断して評価する。 情報技術検定2級レベルの内容となるため、情報技術検定、それに相応する資格・検定に興味関心を持ち学習したもの、チャレンジしたもの、取得したものに関しては別途加味する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科		科目	マルチメディア技術		
クラス又は班				単位数	使用教科書・教材		
担当者				2			
教科・科目のねらい(目標)							
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度等】		
マルチメディア技術について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適したマルチメディア技術の意義や役割を理解している。			マルチメディア技術に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける		マルチメディア技術に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。		
学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
				知	思	態	
1 学 期	4	情報処理・コンピュータシステムの概要	情報のデジタル化	○	○	○	24
			データーの圧縮と復元	○	○	○	
	5		コンピュータシステム	○	○	○	
		ネットワーク技術	データー通信の概要	○	○	○	
	6		通信技術	○	○	○	
			ネットワークアーキテクチャ	○	○	○	
			インターネットシステム	○	○	○	
	7	確認テスト	1学期確認テスト(1学期学習した内容から出題)	○	○	○	
		答案返却	○	○	○		
2 学 期	9	マルチメディア技術	マルチメディア概要	○	○	○	24
			マルチメディアのデジタル化技術	○	○	○	
	10						
			Webページについて	○	○	○	
	11		マルチメディアの活用	○	○	○	
	12	確認テスト	2学期確認テスト(2学期学習した内容から出題)	○	○	○	
		答案返却					
3 学 期	1	ホームページの作成	ホームページの概要	○	○	○	22
			HTML言語について	○	○	○	
			ホームページの作成	○	○	○	
	2	確認テスト	3学期確認テスト(3学期学習した内容から出題)				
	3						

評価の方法	授業態度・学期末確認テスト・出席・提出物等を総合して、判定する。
備考	

東京都立練馬工科高等学校

年間予定授業時間数

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	系列実習(デザイン・工芸技術系列)					
クラス又は班		3年5組				単位数	使用教科書・教材					
担当者						3						
教科・科目のねらい(目標)												
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】						
ものづくり技術について工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている			ものづくり技術に関する課題を発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養うようにしてる。			ものづくり技術に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うようにしている。						
学期	(月)	指導項目	指導内容				評価基準			予定時数		
			知	思	態							
1 学期	4	オリエンテーション(共通) レタリングの知識・技術 の理解(3班共通)	・系列実習とは 年間の流れ				○	○	○	45		
	5	3班編成でローテーション ・デジタル表現班 ・アナログ表現班 ・発想表現班	・系列実習の年間授業計画の説明 ・レタリング検定(欧文基本書体の拡大視写)の練習 ・レタリング検定(和文基本書体表現)の練習 ・レタリング検定(フリーハンドによる字体表現)の練習 ・レタリング検定(模試)				○	○	○			
	6						○	○	○			
	7		・2DCGの発展的技法と作品制作				○	○	○			
			・手描き表現の基礎と作品制作									
			・発想技術の向上 手描きによる伝達方法									
2 学期	9	3班編成でローテーション ・デジタル表現班 ・アナログ表現班 ・発想表現班	・デジタル班 Illustrator(ベクタ画像)とPhotoshop(ビットマップ画像)について 色の指定について キャラクターデザインの造形的調整ポイント 画面の設定と解像度について 色彩調整とチャンネルについて ・アナログ表現班 アイデアの描きとめ方、表現方法。 発展的な技法とデジタル技法との共通点。 ・発想表現班				○	○	○	45		
	10					○	○	○				
	11					○	○	○				
	12					○	○	○				
	3 学期	1	発表	思考と表現 プレゼンテーション 発表指導 作品のプレゼンテーションを行う				○	○		○	15
		2										
3												
年間予定授業時間数										105		

評価の方法	・授業態度(出欠の状況、服装、取り組む姿勢) ・提出物(レポートの提出状況・内容、その他課題) ・作品(精度等)
備考	デジタル表現班はMacintoshPC, Adobe製ソフトウェアを使う。 アナログ表現班は基本的に様々な画材を使用する。 発想表現班はアナログを基本とし、単元によってPC (Adobe製ソフトウェア)を併用。

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科					科目	デザイン表現			
クラス又は班		3年1組	3年2組	3年3組	3年4組	3年5組	単位数	使用教科書・教材			
担当者							2				
教科・科目のねらい(目標)											
【知識及び技能】		【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】						
デザインに関する基礎的・基本的な知識を理解し、デザインの効果的な表現方法などについて、実践的な知識および技能を身に付けている。		デザインに関する事象について、論理的に考えたり、分析したりして、総合的に判断できる。また、その過程や結果および考え方を的確に表現できる。			広い視野をもつ中でデザインに関する事象について自ら学び、関心をもち、主体的・協働的に取り組む態度を身につけようとしている。						
学期	(月)	指導項目		指導内容			評価基準			予定時数	
1学期	4	オリエンテーション		年間授業計画			○	○	○	30	
	5	デッサンの基礎①		グラデーション 形をとる あたりをとる			○	○	○		
	6	デッサンの基礎①		明暗のつけ方 タッチの出し方 質感の出し方			○	○	○		
	7	確認テスト		デッサンの基礎まとめ			○	○	○		
2学期	9	レタリング①		文字のイラストレーション			○	○	○	30	
	10	レタリング②		ロゴイラストレーション			○	○	○		
	11	レタリング③		レタリングのまとめ			○	○	○		
	12	デザイン演習課題①		アイデアの展開			○	○	○		
3学期	1	デザイン演習課題②		アイデアの展開			○	○	○	10	
	2	まとめ		年間授業のまとめ			○	○	○		
	3										
							年間予定授業時間数		70		

評価の方法	・出欠席状況、授業態度、各種提出物、確認テストの成績により総合的に評価をする。 ・講義した内容を、必要に応じて、簡単な実技課題をこなし、理論を実践していく。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	インテリア基礎
クラス又は 班	3学年 必修選択	単位数	使用教科書・教材
担当者		2	インテリア

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
インテリア計画に関する基礎的な知識と技術を学習しようとしている。	インテリアに関する幅広い知識を習得しようとしている。	デザイン・インテリアに関する基礎的・基本的な内容を理解しようとしている。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
				知	思	態	
1 学 期	4	オリエンテーション インテリア計画の概要	インテリアの概念と計画 生活と住まい	○	○	○	30
	5	インテリアの造形と心理 人間の感覚・知覚と造形	感覚の特性、視覚と視覚特性 造形要素の知覚 聴覚・触覚と空間	○	○	○	
	6	形態 色彩とテクスチャー	形態の分類、造形美の原理、装飾の役割 色彩の概念と分類 テクスチャー	○	○	○	
	7	空間の認知	空間定位、スケール感 開放感と閉鎖感	○	○	○	
2 学 期	9	インテリアの環境	屋外環境と屋内環境	○	○	○	30
	10	インテリアと人間工学 インテリアへの応用	人間工学の意味 家具への応用	○	○	○	
	11	インテリアの安全 寸法計画と規模計画	住まいと安全、日常災害 空間の目的と規模、寸法計画	○	○	○	
	12	インテリアエレメント	インテリアエレメントの種類	○	○	○	
3 学 期	1	インテリアエレメント	インテリアエレメントの計画	○	○	○	10
	2	各種空間の計画 まとめ	住宅、オフィス、商業施設 学校、図書館	○	○	○	
	3						
						年間予定授業時間数	70

評価の方法	・出欠席状況、授業態度、各種提出物、学期毎の学期末確認テストによって評価をする。 ・必要に応じて、講義内容の中から簡単な実技課題を与え、理論を実践していく。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科				科目	デザイン材料			
クラス又は班		3年5組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						2	デザイン材料			
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
デザイン材料について各種材料のもつ特徴や性質を踏まえて理解するとともに、各種材料関連する知識を身に付けようとしている			デザインに関する課題に対しどの素材が適しているか発見し、工業に携わる者として科学的な根拠に基づき材料特性を生かしたもののづくりの考え方をを養うようにしてる。			各種材料に関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養うようにしている。				
学期	(月)	指導項目	指導内容			評価基準			予定時数	
						知	思	態		
1学期	4	・私たちの生活と材料 ・材料の種類	・生活とデザインについて ・デザインのプロセス ・各種金属材料(鉄鋼材料)			○	○	○	30	
	5	・無機材料の特性と加工技術	・有機材料と無機材料 ・各種金属材料(非鉄金属材料)			○	○	○		
	6	・無機材料の特性と加工技術	・各種金属材料(非鉄金属材料) ・複合材とその他の材料			○	○	○		
	7	・その他の材料 ・確認テスト	・注目される新材料について(機能性材料)			○	○	○		
2学期	9	・無機材料の特性と加工技術	・セラミックス ・ガラス			○	○	○	30	
	10	・有機材料の特性と加工技術	・各種プラスチック			○	○	○		
	11	・有機材料の特性と加工技術	・各種プラスチック ・木材			○	○	○		
	12	・有機材料の特性と加工技術 ・確認テスト	・木材			○	○	○		
3学期	1	・有機材料の特性と加工技術	・紙、繊維、皮革			○	○	○	10	
	2	・確認テスト				○	○	○		
	3									
						年間予定授業時間数			70	

評価の方法	授業態度・学期末確認テスト・出席・提出物等を総合して、判定する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科					科目	デザイン史
クラス又は班	3年5組					単位数	使用教科書・教材
担当者						2	デザイン史

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
古代から現代まで人類の生み出してきた道具や芸術品、生活様式などから、デザインの変遷を学ぼうとしている	生活及び福祉を取り巻くデザインが、どのような歴史を経て現在のスタイルに至ったのかを学ぼうとしている。	分野を超えてデザイン・インテリアに関する基礎的・基本的な時代の流れを内容を理解しようとしている。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定時数
				知	思	態	
1 学期	4	オリエンテーション 西洋のデザイン・原始	デザイン ～レタリング～ 原始の造形文化	○	○	○	30
	5	西洋のデザイン・古代	オリエント エーゲ海文明 ギリシャ	○	○	○	
	6	西洋のデザイン・中世	初期キリスト教文化 ビザンチン	○	○	○	
	7	西洋のデザイン・中世	イスラム ロマネスク	○	○	○	
2 学期	9	西洋のデザイン・中世	ゴシック 中世の住まいと生活	○	○	○	35
	10	西洋のデザイン・近世	ルネッサンス バロック	○	○	○	
	11	西洋のデザイン・近世	ロココと新古典主義 19世紀	○	○	○	
	12	西洋のデザイン・近代	近代デザインの始まり 近代デザインの成立と展開	○	○	○	
3 学期	1	現代のデザイン	日本の戦後復興とデザイン 海外のデザイン動向	○	○	○	5
	2	産業の発展とデザイン	日本のデザインの発展 デザインの国際交流 海外デザインの動向	○	○	○	
	3						

年間予定授業時間数

70

評価の方法	・出欠席状況、授業態度、各種提出物、学期毎の確認考査によって評価をする。 ・必要に応じて、講義内容の中から簡単な実技課題を与え、理論を実践していく。 ・定期考査の点数を評価の50%に入れる。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		工業科				科目	デザイン実践			
クラス又は班		3年5組				単位数	使用教科書・教材			
担当者						3	デザイン実践(実教出版)			
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
デザインについて社会や生活との関係を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けようとしている。			デザインにより解決できる課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき構想を立て解決する力を養う。			デザインによる豊かで快適な生活空間を構築する力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。				
学期	(月)	指 導 項 目	指 導 内 容			評価基準			予 定 時 数	
						知	思	態		
1 学 期	4	第1章 工業におけるデザイン 第1節 工業とデザイン 第2節 デザインの領域	工業におけるデザインとは何かを学ぶ。デザインの起源や多岐にわたるデザインの領域をそれぞれ大まかに学ぶ。			○	○	○	45	
	5	第3節 工業製品の企画と設計 第4節 ニーズとデザイン 第5節 組織と進行管理	工業製品におけるデザイン企画をグループワークで行う。ニーズに応えるデザインとは何かを実技を通して考える。			○	○	○		
	6	第2章 デザインと創造活動 第1節 造形活動とデザイン 第2節 デザインと創造	デザインに必要な描写力や発想力を実技を通して身に付ける。			○	○	○		
	7	第3節 観察と表示 第4節 形態と構造の原理 第5節 平面構成	デザインに必要な造形力や構成力を実技を通して身に付ける。			○	○	○		
2 学 期	9	第6節 立体構成 第7節 色彩 第8節 人間要素	デザインに必要な色彩感覚や理論を理解し、実技を通して身に付ける。			○	○	○	45	
	10	第3章 ビジュアルデザイン 第1節 ビジュアルデザインの概要 第2節 グラフィックデザイン	ビジュアルデザインの定義を理解し、様々な場面の想定を踏まえた作品を作る。			○	○	○		
	11	第3節 パッケージデザイン 第4節 情報とデザイン 第4章 プロダクトデザイン	平面から立体に変化する利便性を踏まえたデザインを考える。			○	○	○		
	12	第1節 プロダクトデザインの概要 第2節 インダストリアルデザイン 第3節 繊維・服飾デザイン	素材や造形における利便性を踏まえたプロダクトデザインを考える。			○	○	○		
3 学 期	1	第4節 工芸品のデザイン 第5章 環境デザイン 第1節 環境デザインの概要	手作業におけるクラフトとデザインのつながりを考え、実技を通して理解する。			○	○	○	15	
	2	第2節 住空間のデザイン	空間におけるデザインを考え、人々にとって快適な住環境を考える。			○	○	○		
	3	第3節 公共空間のデザイン 第4節 都市空間のデザイン	空間におけるデザインを考え、人々にとって快適な公共的な環境を考える。			○	○	○		

評価の方法	知識・技能＝期末考査・作品評価(A・B・C) 思考・判断・表現＝レポート評価(A・B・C) 主体的に取り組む態度＝出席率
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリア技術科		科目	デザインCAD					
クラス又は班		3学年 必修選択		単位数	使用教科書・教材					
担当者				2						
教科・科目のねらい(目標)										
【知識及び技能】			【思考力、判断力、表現力等】		【主体的に学習に取り組む態度等】					
デザインCADについて工業のもつ社会的な意義や役割と人と技術との関わりを踏まえて理解するとともに、関連する技術・知識を身に付けるようにする。			デザインCADの知識に関する課題を発見し、CADに携わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。		デザインCADに関する広い視野をもつことを目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。					
学期	(月)	指導項目	指導内容		評価基準			予定時数		
					知	思	態			
1学期	4	オリエンテーション	・3D制作物について		○	○	○	30		
	5	Blenderの基本操作	・データの保存方法□		○	○	○			
	6	Blenderの基本操作	オブジェクトの編集の基本 ・押し出し、拡大・縮小、インセット、辺ループの挿入 ・プリミティブな形状の編集		○	○	○			
	7	Blenderの基本操作	オブジェクトの編集の基本 ・メッシュの複製、分離、別オブジェクトの作成		○	○	○			
2学期	9	Blenderの基本操作	オブジェクトの編集の基本 ・テキストオブジェクトのモデリング		○	○	○	35		
	10	Blenderの基本操作	オブジェクトの編集の基本 ・サブディビジョンサーフェスモディファイアで滑らかにする		○	○	○			
	11	Blenderの基本操作	オブジェクトの編集の基本 ・複雑なポリゴンモデリング		○	○	○			
	12	Blenderの応用	Blenderの応用 ・モデリング・マテリアル設定、3Dシーンの設定、テクスチャ・アセットブラウザ		○	○	○			
3学期	1	Blenderの応用	Blenderの応用 ・モデリング・マテリアル設定、3Dシーンの設定、テクスチャ・アセットブラウザ		○	○	○	5		
	2									
	3									
					年間予定授業時間数			70		

評価の方法	①普段の学習態度・学習成果 ②提出物の提出状況とその成果 ③定期考査等の成績 ④出欠の状況
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科	キャリア技術科	科目	工業環境技術
クラス又は班		単位数	使用教科書・教材
担当者		2	工業環境技術

教科・科目のねらい(目標)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【主体的に学習に取り組む態度等】
工業環境技術について、基礎的な知識と技術を体系的・系統的に身に付け、社会環境に適した工業環境技術の意義や役割を理解している。	工業環境技術に関する課題を発見し、倫理観を踏まえた思考・判断力に基づいて、合理的かつ創造的に課題について考え、その成果を的確に表現する力を身に付ける	工業環境技術に関する諸事象について関心をもち、社会の改善・向上を目指して、自ら学び、工業の発展に主体的・協働的な態度および創造的・実践的な態度を身に付けようとしている。

学期	(月)	指導項目	指導内容	評価基準			予定 時数
				知	思	態	
1 学 期	4	「工業環境技術」を学ぶにあたって	環境問題を取り巻く状況の変化に加えて、環境工学の考え方とその応用および技術者の役割について学ぶ	○	○	○	24
				○	○	○	
				○	○	○	
	5	地球と人類	地球の成り立ち 地球上の資源	○	○	○	
2 学 期	6	地球と人類	世界の資源と人間 地球の資源と世界の国々	○	○	○	
				○	○	○	
				○	○	○	
	7	社会と環境	社会と環境の歴史	○	○	○	
3 学 期	9	社会と環境	日本の環境政策 企業などにおける3 R 活動の取り組み	○	○	○	24
				○	○	○	
				○	○	○	
	10	地球温暖化とエネルギー	地球温暖化とその影響 エネルギーの利用技術と地球温暖化対策 エネルギー消費と二酸化炭素排出量	○	○	○	
4 学 期	11	廃棄物とリサイクル	廃棄物の現状 廃棄物の処理技術と管理 廃棄物の処理とリサイクル	○	○	○	
				○	○	○	
				○	○	○	
	12	地域環境の保全	大気汚染の現状と対策	○	○	○	
5 学 期	1	産業と環境	産業界の環境管理の取り組み 環境リスクと安全管理の取り組み 省エネルギーの取り組み	○	○	○	22
				○	○	○	
				○	○	○	
	2						
6 学 期							
	3						

年間予定授業時間数

70

評価の方法	授業態度・小テスト・出席・提出物等を総合して、判定する。
備考	

令和7年度 年間授業計画

東京都立練馬工科高等学校

教科		キャリアデザイン					科目	キャリアガイダンスⅢ			
クラス又は班		3年1組	3年2組	3年3組	3年4組	3年5組	単位数	使用教科書・教材			
担当者							2				
教科・科目のねらい(目標)											
【知識及び技能】				【思考力、判断力、表現力等】			【主体的に学習に取り組む態度等】				
生徒の進路実現を目指し、適性や職種に興味・関心を抱かせ、自己理解と進路意識を高めさせる。				コミュニケーション力、自己表現力、集中力、忍耐力や、挨拶や言葉遣い、話を聞く態度などの礼儀作法といった、将来、職業生活をしていく上で必要とされる能力の育成をはかる。			出席、課題の取り組み・提出状況				
学期	(月)	指導項目		指導内容			評価基準			予定 時数	
							知	思	態		
1 学 期	4	進路活動		CGオリエンテーション						20	
				進路の手引き説明			○	○	○		
				進路ガイダンス							
	5	進路活動		進路講話			○	○	○		
				進路先について							
				求人票の見方							
	6	進路活動		卒業生講話			○	○	○		
				進路ガイダンス							
				履歴書指導							
	7	進路活動		個別面接指導			○	○	○		
		会社訪問指導									
		書類提出の心得									
2 学 期	9	進路活動		直前面接指導			○	○	○	30	
				会社訪問							
				就職試験の報告・まとめ							
	10	進路活動		模擬企業活動①			○	○	○		
				模擬企業活動②							
				一般常識							
	11	進路活動		社会人としての作法・マナー			○	○	○		
				言葉づかい							
				就職後の働き方について							
	12	進路活動		ビジネスマナー			○	○	○		
		福利厚生 of 仕組み									
		失業保険の仕組み									
3 学 期	1	進路活動		社会保険			○	○	○	20	
				労働基準法							
				給与							
	2	進路活動		1年の振り返り			○	○	○		
				就職・進学後の生活について							
	3										
							年間予定授業時間数		70		

評価の方法	○授業に対して積極的に取り組んでいる ○外部講師や企業の方と接する際の礼儀作法を身につけている。 ○資料の中からの的確に情報を収集することができる。 ○自身の考えを指定された様式で書き表すことができる。
備考	朝学習として、月曜日から金曜日の朝10分間授業(週5回)を含む。